

ちばインフォメーションの紙面で募集している催し物、講座のお申し込みの際にお預かりした個人情報は、お申し込みの受付、詳しい資料やご案内の送付、必要なご連絡のために使わせていただきます。イベント等は、開催地域の天候や感染症等の影響により、参加者の健康と安全に配慮し中止させていただく場合があります。

## 風水害 知って・備えて・体験しよう! ~おうちでできる防災・減災~



初夏から秋にかけては、台風や大雨などの自然災害が発生しやすい季節です。近年では、毎年各地で人々の生命が脅かされるような風水害が発生しています。いざというときあわてずに避難ができるよう、日ごろからハザードマップで自宅周辺や避難ルートの災害リスクを確認するなど備えましょう。

### 知ろう

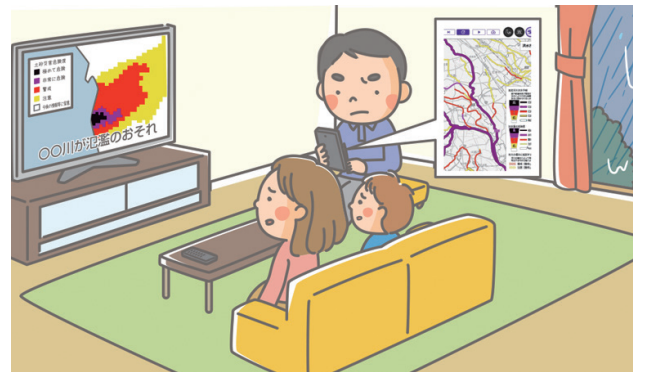
### 自宅周辺の災害リスクを調べよう

ハザードマップポータルサイトはこちらから▼



ハザードマップは、自宅周辺や外出先など、全国の災害リスクを調べることができます。自治体のホームページや国土交通省ハザードマップポータルサイトから入手できます。

危険対象地域以外でも、被害に遭う可能性はゼロではありません。危険だと思ったら迷わずに行動しましょう。



### 天気予報は必ずチェックしよう

### 備えよう

### 雨や風が強くなる前に

#### ●家の外と中の備えを確認しましょう

#### ●非常用持ち出し品を確認しましょう

**家の外の備え**

- 雨戸や網戸を固定する  
窓や雨戸はしっかりとカギをかけ、必要に応じて補強しましょう
- 庭木やプロパンガス、テレビアンテナがしっかり固定されているか確認しましょう
- 屋外のを家中にしまう  
物干し竿や植木鉢などの風で飛ばされそうなものは家中へしまいましょう
- 自動車のガソリンを満タンにする
- 側溝や排水口を掃除する  
ごみが詰まっていると水があふれてしまいます



- ・水・食料・生活品
- ・レインコート
- ・懐中電灯(ヘッドライトや首からさげるもの)
- ・メガネや薬など、常にないと困るもの
- ・赤ちゃん用品・介護用品・ペット用品など
- ・その他現金など



#### ●安全なうちに避難を完了しましょう

- ・河川の近くは素早い判断を! 大きな川の場合は住んでいる地域の雨がやんだ後も注意
- ・明るいうち、雨風が強くなる前に避難を完了させる
- ・冠水している場所には入らない
- ・長靴ではなくスニーカーで避難

#### 避難する前の家のチェック

- ①電気のブレーカーを落とす
- ②ガスの元栓を閉める
- ③鍵をかけてカーテンを開ける
- ④戸締まりをしっかりとる

#### 基本は徒歩で避難

2019年の台風で亡くなった人のうち、半数は車での移動中に被害にあっています。  
※渋滞に巻き込まれたり、周辺より低くなっている道路で水没したりする場合があります。

千葉県防災ポータルサイトにある「じぶん防災」のページでも、日ごろからの災害への備えと千葉県の災害予防・災害対策などが学べます。



▲千葉県防災ポータルサイトはこちら

- 家の中の備え**
- 非常用品を確認する  
懐中電灯、携帯用ラジオ(乾電池)、救急薬品、衣類、非常用食品、カセットコンロ、貴重品など
  - 水を確保する  
飲料水だけでなく、浴槽に水をためておきましょう  
断水した際にトイレなどに使えます  
※乳幼児や高齢者がいる家庭は、落水事故に注意が必要です
  - スマートフォンやパソコンをフル充電する
  - 窓ガラスに飛散防止フィルムを貼る  
万一、飛来物で窓ガラスが割れた際、ケガを防げます。カーテンは閉めましょう

政府広報オンライン「大雨や台風の気象情報に注意して早めに防災対策・避難行動を行いましょう」(https://www.gov-online.go.jp/useful/article/201206/1.html)を加工して作成

### 体験しよう

### 「24時間おうち防災訓練」電気、ガス、水道を使わずに24時間生活してみよう。

懐中電灯やランタンで明かりをとろう。

飲料水は、買い置きの水だけを使おう。トイレなどの生活用水はお風呂の残り湯を利用できるかな。



火を使わずに非常食だけで食事をしたり、停電が長引くと傷んでしまう冷蔵庫の食材を順番に使い、カセットコンロで調理したりしてみよう。どんな食べ物か、わが家の備蓄に合っているか、発見しよう。

#### 体験談

- \*お風呂の水をトイレに使ったが、思ったより早く使い切ってしまった。非常用トイレもたくさん用意しないと足りない。
- \*非常食だけだと、野菜がほしくなった。
- \*夜は真っ暗になるので、懐中電灯を各部屋に用意して明かりを確保した。

体験してみると、食べ物や懐中電灯、電池の数、食器を洗ったりトイレを流したりする水の量、暑さ・寒さ対策など、備えに必要なものが足りていないことに気づけます。知っているだけでは、もしものときに思うよう行動することができません。実際に体験することで、いざというときに役立つ備えにしましょう。